



ITC
JAPAN REGION

Vol. 23

July / 2005

No. **4**

ITC Pledge

ITC 宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々、インターナショナル トレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

Vol. 23, No.4, July 2005

目次 Table of Contents

ITC 宣誓	ITC Pledge	表紙裏
第23回 ITC 日本リージョン年次大会テーマ、今期のテーマ	Conference Theme, 2004-2005 Theme	中表紙
日本リージョン年次大会 リージョン会長 基調演説	President's Keynote Address	1
日本リージョン年次大会 ITC 国際会長 ITC ニュース	News From ITC	3
ITC 国際役員副会長 Div.IV からのメッセージ	ITC Vice President's Message	5
常任委員会報告・特別委員会報告	Standing Committees Reports	8
第23期 ITC 日本リージョン年次報告	The 23rd Japan Region Annual Report	9
第23回 ITC 日本リージョン年次大会	The 23rd Japan Region Annual Conference	
年次大会報告	Annual Conference Report	11
会員表彰報告	Awards	12
CMT、TPP、特別プログラム、教育セッション	CMT, TPP, Special Program and Training Sessions	13
スピーチコンテスト (英語の部)	Speech Contest (English)	19
スピーチコンテスト (日本語の部)	Speech Contest (Japanese)	20
ITC 日本リージョン決議文		
大会準備委員長 謝辞	Gratitude from Coordinator	21
カウンスル No.8 会長に聞く	Interview with Council No.8 President	22
リージョン大会に参加して	Comments on the Conference	23
日本リージョン年次大会アンケートのまとめ	Questionnaire Survey	25
編集オリジナルアンケート報告	Editor's Original Questionnaire Survey	27
情報「ただいま、発信中!」、編集後記	Information, Message from the Editor	29
会員変更届	Roster Updates	裏表紙

大会プログラム表紙

作：高橋 秀 氏 (現代美術家)

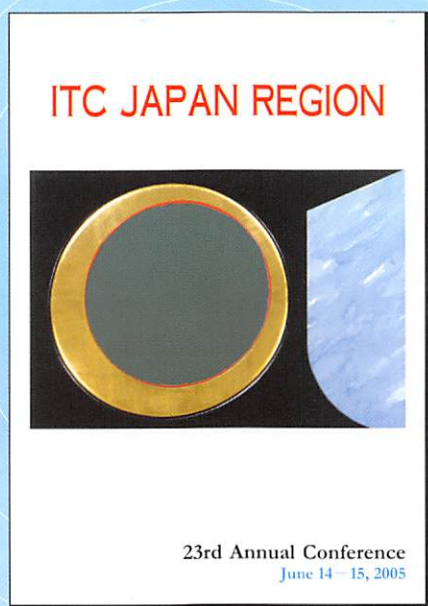
題：「風・火・地・水」(125cm×180cm) 1998~1999作

第23回 I T C日本リージョン年次大会報告

大会テーマ 空・水・土

公式訪問者

I T C国際会長 ウィルナ ウィルキンソン



ITC Theme

Dream-Believe-Dare-Do-Together

日本リージョンテーマ

社会への発信

大津プリンスホテル 2005年6月14・15日

第23回 ITC日本リージョン年次大会



基調演説



空・水・土 社会発信

日本リージョン会長 早川住江

「親の恩は返せるが、水の恩は返せない」ということわざを、先般大津で開催されました「水フォーラム」で知りました。親の恩は返せるのかしら？とこれも確信があるわけではありませんが、では水の恩を返すということは一体どういうことかしら？と一瞬考えてしまいました。水というのはライフラインの要でもあり、大きな災害が起こったときには必ず給水車が現地に派遣されるのを見て人の生活に欠かせない大切なものであることは言うまでもありません。科学が発達した現在でも、人が水を作り出すことは不可能でしょう。「水」に対してはまさにこの格言どおり、私たちがどんな知恵を出しても一度汚してしまった水を元通りにお返しすることも出来ないですね。このことわざを知って今更ながら水の恩を感じました。

今、私たちの目の前に広がる母なる湖、この会場を一步出ればそこには琵琶湖が空と一体となって大きな空間を作り出しています。そしてその周りには、山があり緑の森があり、自然の恵みがいっぱいあります。私はこの琵琶湖の雄大な空間が大好きです。大自然の偉大さ、そしてその恩恵を受けている幸せを実感しつつ、私たちもこの母なる湖、琵琶湖に見守られながらおらかな気持ちと、広い心で、2日間の年次大会を有意義に過したいと思います。

リージョン役員も委員長もそして準備委員会もこの日のために何度も打ち合わせを重ね、万全を期して準備を致しましたが、そこはちっぽけな人間のすること、何が起るかわかりません。でもどんなことにも、この琵琶湖を取り巻く大自然に免じてご寛容を頂き、何よりも笑顔とコミュニケーションが第一・・・と先ずは今大会のテーマ「空・水・土」に則って、予防線を張らせて頂くことに致します。

さて、今期のテーマは「社会への発信」です。クラブ、カウンスル、リージョンと全てのレベルで、日本中のあちこちで、いろいろな形で皆様が活発に社会への発信をして下さいました。小学生、中学生、高校生を対象にして、更に大学でも、大人の会合でもとあらゆる場面と年齢層に発信することが出来ました。今話題の愛知万博でも市民プロジェクトに名古屋のメンバーが参加して「世界の子供たちが幸せになるために」のテーマでITCからの発信もして下さいます。

私たちがITCのメンバーとして学んだことを活かして社会に発信することによって少しでもお役に立つことが出来れば、私たち自身にとっても良い勉強の機会ですし、これは好循環をもたらしてくれることでしょう。又、社会での認知も広がったかな？と思います。社会の認知度を高めることによってITCの発展も期待できるでしょう。これからもITCが社会とのつながりを大切にして、発展し続けますように願っております。

最後に、勉強不足の私を導き、支えて下さいました役員がた、おおぜいのメンバーの皆様から心から感謝申し上げます。有難うございました。

ITC Japan Region 23rd Annual Conference
President's Keynote Address

**“Air, Water, and Earth”
“Communication with Society”**

The President of Japan Region **Sumie Hayakawa**

The other day when I attended the “Water Forum” here in Ohtsu, I learned the proverb: “You can repay your parents’ devotion. But you cannot repay water’s devotion.” I was not sure that I could repay my parents’ devotion. At the same time, I wondered what repayment of water’s devotion was. Water is essential to us. When a natural disaster occurs, water will be supplied as a first necessity. Even though we now live with high technology, we cannot create water. As the proverb says, once we contaminate the water, it is almost impossible to restore the water as it was before.

Now we watch the mother lake in front of us. Walking out of the hall, we can see the wide expanse of Lake Biwa and the sky. Around the lake are mountains and green woods. The blessings of nature. I like the spaciousness of Lake Biwa. We can feel the greatness of nature and the happiness of devotion. On the shore of Lake Biwa, we will spend fruitful two days at the ITC Japan Region Annual Conference.

The Region Board, Standing committees, and Preparation committee prepared for this day, holding meetings many times beforehand. However, we cannot predict what will happen, as we are just small human beings in the midst of nature. Please allow us to make any mistakes under the name of Lake Biwa, the great natural gift. Your smiles and communication are the keys to this conference. We begin the conference under the theme “Air, Water and Earth”.

According to the theme of this term “Communication with Society”, we practiced the theme in various ways at all levels; clubs, councils and region. We spread the idea of ITC from children to adults by holding special meetings in many places. At the Aichi Expo, ITC members in Nagoya are participating in a citizen project called “May all the children be happy”.

If we make the best use of what we learn in ITC, we can bring a favorable environment. Increasing recognition of ITC means the development of ITC. We will continue to communicate with society.

In the end, I would like to express my gratitude to my fellow Board, and to all the members of Japan Region. Thank you.

NEWS FROM ITC (News & Views 2005)

ITC ニュースと見解

ITC International President Wilna Wilkinson



2003年7月に南アメリカ ダーバンで始まった国際役員会の最初の2年間の期が終了しました。以前より期間が2倍長く、しかも2倍の仕事量のあるという意味で、とても興味深い期でありました。アナハイムの本部で以前まで行われてきた多くの任務は、現在役員の肩にかかっています。そして対面の役員会は以前は通常一年に4回であったものが、この2年間でたった2回しかありませんでしたので、国際役員の仕事は今ではフルタイムの仕事となりました。役員会はインターネット上で平均3時間毎月開催されました。電子的な方法によって会合の手続きを高度な技術の域にまでもっていきました。

2年間の期は利点が欠点を大幅に上回ります。SMARTゴールを設定し、そのゴールを達成する為に現実的な行動計画をまとめることで、私たちは、2年の終わりに、そのゴールの全てを達成することができ、さらにいくつか余分に成果をあげることができました！

長期計画により今期のことだけを計画するだけでなく、ずっと将来について計画することができました。勿論、これは皆様がリージョンとしてもすべきことです。

今期は新しい基礎組織でも始まりました。私たちはニュージーランド タウランガの独立した会社であるメディアマターズと会員サービスと事務手続きの2年契約を結びました。

提供されたサービスは質の良いものであり、妥当な金額であったので、私たちは満足し、最初の2年間の後、さらにもう2年間メディアマターズと再契約しました。

会費の支払い、フォームの送付や情報提供に関しては指示に従ってくださるようにもお願いします。皆様の知る必要のあるほとんど全てのこと、必要とする全書類、連絡アドレスはホームページ www.itcintl.com に掲載されています。

最優先事項は質の高いトレーニングです。

1. これを達成するために、私たちは最高の、専門家によって書かれた新しいトレーニングプログラム「パワートーク ITC」を提供します。これを達成するために私たちは、7月のバルティモア大会でインターナショナル トレーナーとクオリティー コントローラープログラムを開始します。目的はリージョン全体を訪問し、訓練し、卓越の基準が維持されているか確実にする手助けをする独自の ITC フェローを全リージョンで最終的に持つことです。
2. 役員会は、クラブが有資格であるには最低10名の会員が必要であるという会則の修正案を提出しました。
3. 新マスターマニュアル：マスターマニュアルは書き直されバルティモア大会で発表されます。

4. 役員会は100名以上の人が出席するどんなITCリージョン大会或いはトレーニング行事にも1,000NZドルの補助金を提供します。

第2番目の優先順位は対外的と同様、組織内での完全な360度の円のコミュニケーションを確立することでした。

コミュニケーションリエゾンオフィサープログラム 国際CLOサッシュャ マルダー委員長の下、このシステムは大きな成功をおさめました。各リージョンは国際レベルからの情報が会員に届き、会員からの全情報が国際に届くよう確実にするCLOを任命することになっています。

役員会は「国際役員会から」という月刊ニュースレターも始めました。

第3番目の優先順位は国連とパートナーシップを組むよう要請しアプローチしました。会長は3月に国連の上級役員と会合を持ち、そのようなパートナーシップを得る為の申請書と指針を受け取りました。

その他の活動 20,000NZドル以上がITC津波基金に寄せられ、この基金のために特別口座が開設されました。

国際役員会は日本リージョンの特別代表として泉和子さんを任命することに決定いたしました。日本リージョンはとても大きい為、特に日本リージョンを代表する任命役員の必要性が求められております。今期、泉和子さんが国際役員として素晴らしい仕事をしてくださり、国際役員会にとって不可欠であると感じ、誇りに思っています。次期会長のテリー バクスターが日本リージョンのために泉和子さんを特別代表として任命することを決めました。

とてもエキサイティングなお知らせ

私は皇居にお招きにあずかりました。私と泉和子さんは木曜日に高円宮久子妃殿下を訪問しITC名誉終身会員としての証書をお渡しすることになっています。様々なご準備をしてくださいました会員の方々に厚く御礼申し上げます。

2005年世界大会

多くの皆様とお会いできますのを楽しみに致しております。——素晴らしい大会！

◎ 新クラブ

◎ 会員数	継続会員	3, 9 7 9
	終身会員	3 2 7
	新入会員	4 2 2
	無所属会員	2 3
	準会員	1
	(内重複会員	1 6 0)
	総会員数	4, 5 9 2

国際会長と共に



I T C国際役員副会長 ディビジョンⅣ 泉 和子

国際会長と共に過ごしたこと

ロンドンでの国際役員会議では、御城のような邸宅で会長と寝起きを共にして素晴らしいリーダーシップの根底に触れ、ニューヨーク会議では、気難しい議題を睨むだけではなく、合間を縫って一緒にショーを観劇した時の人間味溢れる会長の横顔を知り、そしてこの度公式訪問者として日本を訪問され、共に過ごした数日間は、私は国際会長に日本リージョンを自慢げにお披露目し、国際会長はせめて私でも、和子、和子とこの際だけでも頼りにして下さり、お互いに助け合った連帯感を感じました。又、大会開催中は公式訪問者として、それは、それは多忙な2日間を過ごされましたが、なるべく会員との出会いを楽しみたいとおっしゃったご希望は、過密スケジュールのために叶わなかったと残念そうにおっしゃっていました。むしろ、こんなに忙しくて和子は大丈夫？ と、時々肩を抱いて私を気遣って下さる配慮は、余裕の有る、自信に満ちたリーダーだと私はつくづく感心し、ご滞在中の会長と共に過ごした有意義な時間を今懐かしく振り返り、その恩恵を大切にしたいと思うと同時に、この2年間に国際役員会と言う同じ屋根の下で会長と共有の時間を持つことが出来たことを私は至上の喜びと感じています。

古都京都での静かな歓迎

この度は、6月に第23回日本リージョン年次大会に公式訪問者としてご来日になった国際会長の公式行事以外は静寂な日本に触れたいとのご意向に添い簡単な歓迎とし、鄙びた京都の日本旅館での滞在を楽しまれました。お食事は朝から晩まで和食を好まれ、日本式の浴槽に入られ、畳の部屋に敷かれた和式布団で浴衣を召してお休みになり、私達が準備した静かな歓迎を心から嬉しく思うと、後に頂いたメールに縷縷と記されておりました。

国際会長冥利に尽きた大会出席

前年度の公式訪問者であった私からの報告で、日本リージョンは会員数が多いだけのことかと想像していたが、これほどまでに整った、見事な大会だとは夢にも思わなかったと感嘆の面持ちで語られ、会員の一致団結した精神と洗練された丁寧な準備が、この大会の成功を物語っているという言葉の評価の時間に頂いたコーディネーターは感激されたことであろうと思います。今回の出席を「国際会長冥利に尽きた」と言う言葉で表現したいとおっしゃっていました。

ちょっと、お耳を拝借！

ここで、会長の横顔として一寸内緒のお話を致しますと、ロンドンへ先にお送りしておいた新幹線の切符をあんなに口すっぱく申し上げておいたのに持ってくるのをお忘れになり、帰国時は頂かれた大切な色紙とお靴をホテルに置き忘れられたり、他人のことは言えない私ですが、国際会長も人の子、結構うっかり者だと言うことが解りました。(決して会長が、この日本文を理解なさることが無いように念じて、この内緒話を挿入します！)

新幹線の中での会話

大会が終り、いよいよ今日は高円宮家をご訪問なさるという日、お互いに忙しい身ですから、京都から東京までの新幹線の中で、日本の皇室や宮家のご様子などを私が講義(?)することになっておりました。ところが会長は、日本の会員の世界大会への参加が少ないことをとても気に掛けられ、何故少ないのかを今すぐ突き止めようとやっきになられ、その理由の一つは言語に関係するのではないかという考えから、「和子、私は今から Carol 大会準備委員長と役員達にメールを出すわよ！」という騒ぎです。何かと思えば、世界大会中に行われる、せめてワークショップだけでも日本語訳を作成して、一人でも多くの日本リージョンの会員に便宜を計りたいとお考えでした。日本人会員のための重大事だと、宮家訪問の講義をさておいて一気にその仕事を片付けられました。

私が、あくる日東京から帰宅してコンピュータを開けたとたんに、これ又、極端な敏速主義であるコーディネーターから、はや9つのワークショップのハンドアウトの書類がどっさりと届いていました。お蔭様で、その後の日本リージョンの翻訳の仕事が増加したことは言うまでもありません。しかし、国際会長のご来日が、日本の会員をこれほどまでに大切に考えて下さることになり、国際と日本の密接なコミュニケーションを図る事が出来たことに功を奏したことは間違いはないと考えました。

会長の、何がなんでもやり遂げられる猪の如くの突進実行主義は、役員会の中では日常茶飯事に起ります。役員達は猛突進する猪の後を追いかけることに懸命です。新幹線の中で「会長は亥年のお生まれでいらっしゃいますか？」と、もう少しで口から出そうになりました。

高円宮妃久子殿下とのご面会

I T C 国際レベルの名誉会員の高円宮妃久子殿下の御許へ、改めて終身名誉会員のお願いに参上された会長にお伴を致しましたが、お出かけ前のお召し替えをお手伝いした時、装飾品が多すぎないか、派手過ぎないかと、そのお気遣い振りは大変なものでした。でも、会長は宮家の応接間で妃殿下をお待ち申し上げる間、ひどく緊張なさり、何度も深呼吸をなさる光景を目のあたりにして、凜とした壇上でのお姿とはこうも違うものなのかと、一人でこっそり、ほほえましく拝見して居りました。(これ又内諸！)

妃殿下とのお話は全て英語でなされ、和やかな明るい妃殿下のおもてなしを非常にお嬉しそうにお受けになって居られました。

I T C 会員を代表して、会長は終身名誉会員と言う称号を記した賞状を妃殿下にお手渡しになり、お二人は写真に納まれ、その写真はいずれ然るべき所に掲載される予定です。

妃殿下のご日程が合わず、当初にご依頼申し上げた Baltimore 世界大会へ基調講演者としてご臨席賜れなかったことが、妃殿下にも又会長にもとても残念なことであったようです。この場に同席した私は、きっとそのうち終身名誉会員高円宮妃久子殿下の世界大会へのご臨席が実現するであろうと言うことを予感致しました。

妃殿下の I T C に関心をお示し下さっていることは以前から承知いたしておりましたが、国際会長のこの度の表敬訪問によって、妃殿下と I T C は今こそ強い絆で結ばれたことを確信しました。

静寂な、玉砂利の黒く雨にぬれた宮家を離れる時、妃殿下は何度も会長に手を振られ、会長は頭を垂れて日本式のご挨拶をなさっておられたのが、とても印象的でした。

Baltimore International Board MeetingsとBiennial Conventionへの出席

7月17日から22日まで開催される今期最後の国際役員会議出席のため私は16日に日本を離れ、大会出席を含め2週間の予定でBaltimoreへ出かけます。

出席役員会議は、ニューヨークでの会議と同じく、過密で忙しいことであろうと想像しますが、何度か場数を踏むうち、準備にもなれ、会議上でコンピュータを駆使することにも慣れ、ITCの役職経験としては、やはり2年間の任期が有効だと感じました。

7月23日から開催される第63回ITC年次大会はBiennial Conventionと呼ばれ、これは2年に一度の世界大会と言う意味です。初めての隔年大会は、まだなお難問題を多く抱えてはおりますが、晴れやかに開催される大会の準備の為に、私達は今懸命に励んでおります。

今回は役員として、初めて壇上で議事に臨む事になる緊張が現在の私の精神力になっています。役員達は語学の不便さなどは容赦なく色々と職務が課せられ、私はスピーチコンテストのPresiding Officer（プログラムリーダーの上部の役目）やディビジョンIVの報告などの職務を果たします。

FITCのテスト受験

今期初めて実行されるFITC（ITC国際トレーナー）のテストを受けることが今回の私の最大の課題です。FITCとは、優秀な最上級のITC国際トレーナーチームを構成することを目的とし、このテストを受けることにより審査基準を越えたならば、FITCの称号が与えられます。FITCに課せられることは、ITC組織の水準向上と維持のための国際プロジェクトに参画しなければならず、国際役員の代行を務めたり、役員会に代わりトレーニングやプログラムの提供や管理をするという大切な立場になることです。実技やスピーチなど、難しいテストだとされていますので、その審査基準に到達することは私には無理かもしれませんが、とりあえず挑戦してみようと意を決して、久しぶりに大学受験の面持ちで、出掛けることにしています。

又来期は、Terrie Baxter 次期会長により、私は“Special Appointed Officer via Japan Region”という役職の元に、国際と日本リージョンを繋ぐ役目を果たすことが約束されており、このことが日本リージョンの会員の皆様に、少しでもお役に立つことであるならば幸いであると思っております。

2年に亘る国際役員の任期中、日本リージョンからは過分なご援助を賜り、会員の皆様からは身に余るお励ましの数々のお言葉を頂きましたことに厚く御礼を申し上げ、今ここにこの職務を無事終えることをご報告申し上げます。

NZ\$1,000の補助金の受領報告

各リージョンは、申込みをすれば、最低100名の参加者のリージョン開催に対して、1,000 NZドルの補助金を受けて、国際役員又は認定された国際トレーナーを招いてトレーニングを受けることが出来るとする国際の補助金制度を利用して、日本リージョンは、当然その基準を満たす第23回日本リージョン大会開催に対して、国際から1,000 NZドルの補助を受けました。

第23期日本リージョン役員会

常任委員会・特別委員会報告

資格認証委員会

委員長 川 染 厚 美

日本リージョン資格認証委員会は、今期も手続き上の合理化のため、資格認証申請書の送付と申請手数料の送金を代行いたしました。

1. 委員会に44名の会員による48件の資格認証申請書が提出されました。ITC国際資格認証委員長に郵送し、全員が認証された後、申請手数料をIMSに送金いたしました。

◎ 資格認証過程取得者数（2004年6月1日—2005年5月31日）

コース1 = 24 コース2 = 14 コース3 = 9 コース4 = 1 合計 48

2. 第23回日本リージョン年次大会への資格認証申請書は32通提出され、大会期間中に資格認証委員会がサインを致しました。

増設委員会

委員長 永 井 眞 澄

沖縄のクラブ増設説明会を2005年7月24日(日) 13:30~16:30、沖縄県那覇市「てんぷす館」において開催します。沖縄で中心になって頂く新木泉様(日本話しことば協会)のご都合で、今期ぎりぎりでの説明会となりました。早川会長の「皆で創り上げるクラブ」に添って活動いたします。(説明会の詳細はこの会報 P.29「ただいま発信中」をご覧ください。)

組織運営研究委員会

委員長 盛 田 純 子

早川会長より指示された事項を委員会で検討の結果、役員会に対して以下の提案をいたしました。

1. 役員・委員会の構成及び任期。
 - ・会計の業務を事務局に委託し、会計の役職を削除する。
 - ・常任委員会は、指名と選挙及び増設と会員委員会をそれぞれ統合する。
 - ・国際交流委員会は、必要あるとき特別委員会として任命する。
 - ・会長及び書記の任期を2年とする。
2. CMTのあり方及び大会におけるビジネスの運び方。
 - ・特に質疑応答を必要とする部門以外は、一堂に集合しなくても書面で対応する。
 - ・大会における委員会報告はなるべく書面とし、その分審議の時間を充分とる。

教育研究委員会

委員長 山 崎 眞 知

今期から組織された教育研究委員会は、委員長と各カウンスル1名の委員9名により構成されております。委員会は、会報第1号でも述べましたが、3つの目標のもとに活動し、それぞれに次のような成果を得ました。

1. 日本リージョン独自の「手引き」5種類を今期中に発行予定
2. ITC発展のため、小学校・中学校・高等学校・短期大学等外部からの要請に応じてクラブはじめカウンスル・リージョンが活躍
3. 「愛知万博」で繰り広げられる、市民によるイベントの一つに、会員3名がスタッフとして参加。その他にも多くの会員が社会で活躍

年次大会では、会場の一隅にコーナーを設けて戴き、活動を会員の方々に伝えました。今年度の目的をほぼ達成することが出来たことを、ご報告致しますと共に、大きなお力で、ご協力下さいました会員の皆様に、心より感謝申し上げます。まだまだ努力して参らねばならない委員会です。今後ともよろしく願い申し上げます。

…………… 第23期 I T C 日本リージョン年次報告 ……………

2004～2005年

第23期 日本リージョン書記 原 誠 子

第23期リージョン役員会は、日本リージョン声明文「I T C 日本リージョンの使命は、I T C の目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある」を継承し、会則・常規及び役員会方針に基づき、早川住江会長のテーマ「社会への発信」を実践するために以下の活動を行った。

長期目標

社会貢献
組織運営研究

短期目標

運営の合理化
クラブの充実
教育研究（I T C の社会参加を目指して）

1. クラブ数・会員状況

日本リージョンは、今期 8 カウンシル、89 クラブ（内、無所属クラブ 1）、会員数 1,688 名（内、重複会員 51 名）でスタートした。

6月14日現在、日本リージョンはクラブ数89クラブ（内、無所属クラブ1）、会員数1,736名（内、重複会員52名）である。

2. 研修会報告

- 1) C M T カウンシル運営研修会第 1 回目は、2004年11月 1 日京都タワーホテルにおいて10部門を開催。尚、議会法規役員部門は11月11日日本リージョン事務局で開催。総出席者94名。第 2 回目は、2005年 6 月15日大津プリンスホテルにて開催予定である。
- 2) T P P (Training Power Pack) は、公式訪問者 Wilna Wilkinson 国際会長によって 6 月15日に行われる予定である。
- 3) 大会の評価は、6 月15日大会終了後、公式訪問者により新旧リージョン役員を対象として行われ、R M T (Region Management Training) は、同日、終了後に、同じく公式訪問者により行われる予定である。

3. 主な活動

- 1) 役員会は定足数のもと、現在まで12回〔臨時役員会 2 回・通信役員会 1 回を含む〕を開催した。役員会が開催されない期間には、常時 E-mail にて緊密な連絡をもった。
- 2) 2004年10月～11月にかけて、8 カウンシルに役員会が公式訪問を行った。
- 3) リージョンメールは、事務局の協力を受け、E-mail 送信により 4 回配信すると共にリージョンウェブサイトに掲載された。
- 4) リージョンウェブサイトには From the Boardroom の翻訳、その他を掲載し、常に会員にリージョンの理解を深めるよう努力した。

4. その他の報告

- 1) 奈良白鳳短期大学にて昨年に続き会員の協力のもとディベートを学生に指導した。
- 2) リージョン会報は、年4回発行予定の内1回は、ウェブサイトに掲載した。
- 3) 会計監査委員会は、2005年3月31日中間監査を行った。
- 4) スマトラ沖で発生した津波支援のため、国際の要請に応じ、会員に義援金を募り、1,565,918円(送料4,000円を含む)をIMS支援金口座へ送金した。
- 5) 第23回年次大会は2005年6月14日・15日の2日間、大津プリンスホテルにおいて、現在開催中である。テーマは「空・水・土」である。
- 6) コミュニケーターオブザイヤーにリージョンより広瀬忠子(阪神)を推薦。

第23期日本リージョン役員会は、早川住江会長のもと、テーマ「社会への発信」を心し、合理性を持ち前向きな姿勢で任務を遂行した。

選挙結果報告

第24期2005-2006		リージョン役員	次期指名委員会委員	2005-2006
会長	泉 和子	カウンスルNo.2 阪神クラブ	伊藤 孝子	カウンスルNo.1 葵クラブ
次期会長	石本美知子	カウンスルNo.5 大阪クラブ	塩崎真喜子	カウンスルNo.2 六甲クラブ
第一副会長	佐山 昌子	カウンスルNo.4 岡山クラブ	遠藤万寿美	カウンスルNo.8 青山クラブ
第二副会長	大野三恵子	カウンスルNo.6 京都クラブ		
書記	荒川 昭子	カウンスルNo.1 東山クラブ		
会計	中田 敬子	カウンスルNo.2 三田クラブ		



第23期 役員



第24期 役員

会則・決議委員会報告

委員長 三 保 聖諭子

6月13日、14日大津プリンスホテルで開催された第23回日本リージョン年次大会において日本リージョン会則・常規に対する修正案は会則8件、常規1件が提出された。

審議の結果は修正案1、4、5が否決。修正案2、3は修正案1が否決されたので審議なし。修正案6、7、8、9は、審議の時間がなく、審議終了となり、会則・常規の修正はなかった。

年次大会報告

【大会プログラム第一日 2005年6月14日(火) 8:30~21:00】

* ブリーフィング クラブ派遣員は資格確認後、たすきを着用し、議会議長から事務会議について進行の説明を受けました。

* 開会式 大津消防局音楽隊の軽快な生演奏にあわせ、8カウンスル会長を先頭に89名のクラブ会長が元気よく入場しました。会場の全会員は起立し、公式訪問者 Wilna Wilkinson ITC 国際会長と泉和子国際副会長を大きな拍手でお迎えしました。



早川住江会長が力強くギャベルを打ち、開会を宣言しました。

* 事務会議 公式訪問者 ITC 国際会長出席のもと、早川リージョン会長の進行により、報告、審議、次期役員・指名委員の選挙が行われました。



* スピーチコンテスト英語の部 7カウンスル代表のスピーカーによってコンテストが行われました。

(詳細P.19)

* 教育セッション5部門 5部門の多様な教育セッションが行われました。(詳細P.15~18)

* 晩餐会 滋賀県知事、大津市長らのご来賓をお迎えし、華やかな晩餐会が催されました。



役員就任式 公式訪問者 ITC 国際会長がインストーリングオフィサーを務められ、現役員の退任と新役員に格調ある就任式がとり行われました。泉次期会長により来期テーマ「変化、そして飛躍」が発表されました。

エンターテインメント 日本人離れした声量と歌唱力を持つジャズ・ゴスペルシンガーの越智順子とアコースティックギターの巨匠・宮野弘紀、ピアニスト中村真の三氏による心に沁み入るヴォーカルと演奏、エスプリの効いたトークで、「魂、夢の饗宴」のひとつときでした。



【大会プログラム第二日 2005年6月15日(水) 8:30~16:15】

* C M T 中野知子第一副会長の進行によりカウンスル運営研修会が開催されました。

(詳細P.13)

* T P P 公式訪問者 ITC 国際会長により「パワートーク ITC」の訓練が行われました。

(詳細P.13)

* 特別プログラム 講師 龍村仁氏により「地球と共に生きるための智慧」の講演が行われました。

(詳細P.15)

* スピーチコンテスト日本語の部 8カウンスル代表のスピーカーによってコンテストが行われました。

(詳細P.20)

* 次回大会案内 次回大会は新役員全員が「ミステリーツアー」の標示を持ち、楽しく案内しました。さてミステリーツアーは何処へ!

* 閉会 早川会長によって閉会が宣言されました。



登録者数最終報告

登録委員長 高島 睦代

	登録数	14日		15日		14日	15日	観光	
		出	席	昼	食			晩餐会	①
会員	736	683	662	439	422	531		5	114
ゲスト	20	14	12	3	6	23		0	2
来賓・ジャッジ				3	6	5		0	1
計	756	697	674	445	434	559		5	117

第23回 日本リージョン年次大会表彰

リージョン第二副会長 葛谷 美紀子

1. 会員数30名以上を20年以上継続しているクラブ（1クラブ）

カウンスルNo.5 大阪クラブ — 27年間継続



2. 会員数30名以上のクラブ（7クラブ）

カウンスルNo.1 錦クラブ
カウンスルNo.3 クリスタル神戸クラブ
カウンスルNo.4 ひろしまクラブ 岡山クラブ
カウンスルNo.5 大阪クラブ 阿波クラブ
カウンスルNo.8 東京クラブ



3. 20年継続会員（38名）

カウンスルNo.1 (名古屋) 村上 令子 (葵) 杉浦 節子
(名 城) 島本佐江子 高田美喜子
カウンスルNo.2 (阪 神) 立野知津子 (イースト神戸) 今井 京子 (甲 南) 加藤 啓子
カウンスルNo.3 (関 西) 大西 良子 炭本 文子 (西 宮) 吉本 亮子
(姫 路) 江尻三千代 池田佐和子 川田 庸子 前川 雅子 本岡紀美子
村角 容子 永井千賀子 小国 光子 岡本 淳子 沢田 郁
坂本 邑江 渡辺 弘子
カウンスルNo.4 (九 州) 西村 節子 (ひろしま) 鴉田 孝子
カウンスルNo.5 (豊 中) 安藤 雅恵 榎本 町子 村田 照子 中野 智美 高畑 貞子
山本カネ子
カウンスルNo.6 (平 安) 山科 昌子
カウンスルNo.7 (米 子) 浜田 一恵 泰野 順子 大原 温恵 岡崎 祥子 坂口 總子
生和 陽子 住田実寧子

4. 35年継続会員（2名）

カウンスルNo.1 (名古屋) 豊島 知子
カウンスルNo.2 (阪 神) 三木 艶子



5. 40年継続会員（2名）

カウンスルNo.1 (名古屋) 高柳 恭子 吉田千鶴子

6. 45年継続会員（1名）

カウンスルNo.1 (千 種) 鈴木 宏子



7. 今期新入会員最多紹介者

無所属 (松山) 奥村 紀子 — 4名紹介

8. ☆リージョンコミュニケーターオブザイヤー

カウンスルNo.2 (阪 神) 広瀬 忠子 — 阪神大震災の経験を伝えたスピーチに対して

おめでとうございます！

ITC国際大会にて「TARGET TWENTY」の表彰を受ける5クラブは、
神戸クラブ、ポート神戸クラブ、琵琶湖クラブ、アクア千葉クラブ、松山クラブです。
賞品は新マスターマニュアルあるいは来期クラブの世界大会協力費の免除です。

教育・特別プログラム・教育セッション5部門 報告

リージョン第一副会長 中野知子

企画し、リーダーとなり、発表者となり、発言し……。同じ学びの基本を持ち、共通の問題を分かち合い、そして同じ湖を見ながら深い感動を胸に刻みあうことができました。「伝えたい」「知らせたい」「分かち合いたい」そして「学びたい」、そんな気持ちを強く持って集まった多くのメンバー達は凝縮した2日間を過ごすことができました。

第2回CMT（カウンスル運営研修会） 2005年6月15日 8:30～9:30 コンベンションホール 淡海2F



大会第2日目8:30～9:30、次期カウンスル役員、委員長を対象に111名参加により、13の部門別テーブルに分かれて熱心な研修が行われました。リーダーによる充実した資料提供と説明にカウンスルの役割、カウンスルでの役割に自信と方向性を見出し、カウンスルどうしの横のつながりに力を得た、という出席者の声が多く聞かれたと共に時間が足りなかったという声も多くありました。誠意を込めてリーダーを務めてくださった方々に敬意を表します。

TPP（トレーニングパワーパック）2005 2005年6月15日 9:30～10:45 コンベンションホール 淡海2F

リーダー：公式訪問者 Wilna Wilkinson ITC国際会長

通訳：奥田 小夜子（No.1 錦クラブ）

TPP 2005 内容報告

リージョンプログラム・教育委員長 中野知子

OHPを使いながら、出席者の間を歩き、話し掛け、時には椅子の上に立ち上がり、大きなアクションで絶え間なく出席者に問い掛け、「ワークショップなのだから皆で考えましょう。」と発言を促す。広い会場全体を巻き込むかたちでTPPは始められました。

パワートークITCはプレゼンテーションスキルにおける専門的なトレーニングを必要とする人のためのITCにより作成された「短期コース」トレーニングプログラムであり、コース終了後には評価と終了証明書が付け加えられている。

従ってパワートークITCは経験あるITC会員によって

- ◎ 新会員獲得ツールとして
- ◎ 継続会員の自己向上の手段として

提供されるものでなければならない。



◇なぜ話すのでしょうか？

- ・ 情報提供・納得する・説得する・楽しませる・刺激する・印象付ける・動機付ける

これらの目的を充分達成し相手に届けるためにパワートークITCのコース1ではプレゼンターの身体的話し振りに焦点を当てている。

アルバート メヘラビアン博士によれば人の声は聴衆への影響の38%、ボディーランゲージは55%、言葉或いはプレゼンテーションの内容はたった7%の影響である。

これらを考慮して聴衆を集中させるよいプレゼンテーションには3つのポイントがある。

聴衆を集中させるよいプレゼンテーションについて3つのポイント

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1. イメージ | 聴衆のリスニングをとらえるヴィジュアルイメージ |
| 2. 声の効果 | 聴衆のリスニングをコントロールする |
| 3. ボディーランゲージ | 最後の言葉まで聴衆の注意を完全に維持する |

1. イメージの重要性について

- 最初の良い印象を与えるために自信を持って、頭を高く上げ、背筋を伸ばし、しっかりとした足取りで微笑みながら演台に近づき、5秒静かに待ち、挨拶「おはようございます・・・皆様」によって聴衆との一体感を作り出してから重要なオープニングの一言を発する。ここで聴衆の集中をつかみとる。
- ネクタイ、ジャケットの色などにより、どんなイメージを作るかは自分自身で考えなくてはならない。

2. 声の効果—イメージによって心をとらえ、声によりそれを保っていく。

- 聞きやすくはっきりとした声を出すことが最も大切なポイントであり、そのためには良い呼吸の訓練が必要である。
- 3つのペースを使い分ける。
 - ① 安定したかたちで自然なペース—聴衆が主題を理解しやすい。
 - ② 熱意を起こす少し速いペース—やる気を起こし、生き生き見える。
 - ③ 一言一言強調しながら間を取り話す—全ての言葉を強調する。3つのパターンを繰り返し聴衆の注意をコントロールすることが出来るがマスターするには難しいテクニックでもある。
- ピッチ（声の高低）
高い音域、低い音域の連続した動きの抑揚をうまく利用することは強力な説得のテクニックとなる。（訓練によってかなり達成することが出来る）

全て実例を挙げながら参加者と共にリーダー自身のあらゆるイメージ、さまざまな声、ペース、ピッチを駆使して、魅力溢れるTPPが展開されました。

今回のTPPに参加したことによりパワートーク I T C をクラブやカウンスルのプログラムに応用していく方法が提示されたと感じた人も多くいたようです。パワートーク I T C は繰り返し繰り返し実地訓練することにより生かされてくるものであり、訓練により熟達していくものであることをリーダーは積極的に語りかけてくださいました。

勇気をもって、パワートーク I T C をクラブ・カウンスルで活用いたしましょう。

特別プログラム ^{たつむら}龍村 ^{じん}仁監督は語る

^{ガイア}
「地球と共に生きるための智慧」

講師：龍村 仁氏 映画監督

プログラムリーダー：黒田 豊子 (No.4 ふじクラブ)

日時：2005年6月15日 11:00~12:30 コンベンションホール



講演 内容報告

リージョンプログラム委員 黒住 祥重 (No.4 岡山クラブ)

まさに、聴き上手が話し手の力を更に引き出したような、そんな感じさえ受けた特別プログラム講演でした。

「最近の人たちは『生かされている』という感覚を失ってきている。何かに畏れを抱くことが無くなり、自己中心的になってしまっている。これが全ての悪の根源である。自然を壊していく中でいつのまにか心も失ってきた。でも此処で何かおかしいと気付くのは先ず女性の力である。これこそが女性の叡智、人類の叡智だ。」というお話のあたりから聴衆はぐんぐん話に引き込まれて行きました。

次に「^{ガイアシンフォニー}地球交響曲第一番」に登場する象の「エレナさん」の話になりました。「テレビでエレナさんの優しい目を見てどうしても逢いたいと思い、アフリカのケニアへ行きました。やっと逢えた時の喜びと感激・・・」このあたりで周囲を見回すと皆の目に涙、龍村氏のエレナさんに対する尊敬の心に胸打たれ、水を打ったような静けさでした。

「象のリーダーは女性の象。安全な時の群は小さいが、ひとたび危険な状態になると千頭もの大群になり、経験豊かな雌象に連れられて、遠く離れた水のある場所へ移動する。やがて年寄りから順番に、かつて川だった所へ帰り死んでいく。その後大雨になり再び川が出来、また数年後、象のお腹にあった樹木の種が育ち、やがて茂みが出来た。」自然を受け入れて生きる象の叡智に感動しました。

最後にガイア理論について、「ガイアとはギリシャ神話の中の地球を司る女神の名前。ガイア理論は英国の生物物理学者ラブロック氏の打ち出した理論であり、地球はそれ自体が大きな生命体である、全ての生命、空気、水、土などが有機的につながって生きているというもの」と説明され「太陽系の惑星の中で生物が棲めるのは、酸素のある地球だけ、酸素が減らないのはそれを植物が出してくれるから。この目の前の花と自分はこうしてつながっている。地球上の物は全てこのようにしてつながっているのだ。」

自然と人間は一体。「地球の命=自分達の命」を実感した講演でした。

教育セッションA ワークショップ 狂言

テーマ「日々のライフスタイルに活かせる狂言」

ワークショップリーダー：大和座狂言事務所主宰 安東 伸元 氏

(アシスタント 大和座座員 小田 兆紀 氏)

(アシスタント 大和座座員 金久 蒼汲 氏)

プログラムリーダー：讃井 良子 (No.1 岡崎クラブ)

日時：2005年6月14日 15:30~17:00 淡海2階



A ワークショップ 内容報告 リージョンプログラム委員 小田 和子 (No.5 豊中クラブ)

講師による「近年若い人の間やマスコミなどで本来の美しい日本語が感じられない話」からスタート。「国語」が遠のいてゆくことを憂い言葉にこだわる事を第一に「毅然とした」日本語の表現を心の芯において狂言を演じていることを能楽の現場から語り続けていることや、又国の民族が歴史的に積み上げてきた古典文化が国と人間の人格を作るという報告などを熱く説かれました。

続いて実践として配布資料の謡「雪山」の歌唱指導に入り、合間に歌詞の説明や謡い方の指導、西欧民族はクラシック芸術文化が人格を作っている話などを組み込まれました。世界的なリズムであるという五七五の「間」のリズムを取ることで全員の声が一体感となって心地よく響き、会員の集中力が一段と増したように思いました。外国の歌との比較などが盛り込まれた歌唱指導の後、1名のITC会員をステージ上に誘導、2名の若手座員が演じる「太郎冠者 次郎冠者」の台詞と所作を真似て声を出すように指導され、言葉、発声、姿勢などの指導やその意味を説明され、しばし狂言の世界へと会員の興味と向学心を誘われました。凛とした次代を担う頼もしい若手青年座員2名の参加が彩りを添え、正しい日本語と古典文化の普及を天職とされる講師の総合的な知識を盛り込んだ内容は、温故知新の大切さを改めて考えさせられ、鑑賞だけの狂言では得られない知識の嵐のワークショップとなりました。

教育セッションB 講演

テーマ「笑いのコミュニケーション」

講師：田井中 邦彦氏 (㈱電通 取締役)
プログラムリーダー：津田 恵子 (No.4 松江クラブ)
日時：2005年6月14日 15:30~17:00 淡海2階



B 講演 内容報告 リージョンプログラム委員 金田 孝子 (No.6 鴨川クラブ)

230名の多数参加者を前に、田井中邦彦氏の軽妙でユーモアを交えたご挨拶から始まり終始、笑い声の絶えない「笑いのコミュニケーション会場」となりました。

毎日、テレビから数え切れないくらいのコマーシャルが流れていますが、人の記憶に残るのは1日に3本ぐらいしかないそうです。したがって、いかに人の心に強く残る作品を制作するかという難しさを、映像を通して親しみやすく話していただきました。

東京と関西の「笑い」が違うように、コマーシャル制作も地域によって違いがあり、関西は本音の文化が強く、東京にはボケの文化はなく、知的向上心が大きく、さりげなさがおしゃれに繋がっていると、二年半前東京に転勤された実感として語っていただきました。

参加者から懐かしいコマーシャルに当時の世相を思い出し、郷愁を憶えたという声をききました。また、アジアのコマーシャルも見せていただき、特にタイやインドのコマーシャルレベルの高さとセンスのよさに感心いたしました。時間の経つ早さを感じつつ、プログラムリーダーの津田恵子さんは「メッセージを伝えながら笑いでつなぐコミュニケーションの力は偉大で、これからどんなコマーシャルが登場し、私達の心に刻まれるのか、楽しみです」と締めくくられました。

笑いのある楽しいテーマどおりの肩の凝らない講演となりましたが、その中でコマーシャルは知的で考えさせるユーモアがあり、何気なく見ているコマーシャルは制作者の知恵と情熱の込められたメッセージであることを知りました。

教育セッションC ワークショップ リーダーシップ

テーマ「リーダーシップについて」

ワークショップリーダー：ウィルナ・ウィルキンソン 公式訪問者

I T C国際会長

プログラムリーダー：白垣 駿一 (No.8 サンデークラブ)

通訳：高橋 和子 (No.2 阪神クラブ)

日時：2005年6月14日 15:30~17:00 比叡 (ホテル2階)



C ワークショップ 内容報告

リージョンプログラム委員 加藤 啓子 (No.2 甲南クラブ)
ワークショップCは「Leadership from a Global Perspective グローバルな視野からのリーダーシップ」という表題のついた日英の4ページの配布資料を基に進められました。国際会長には昨年プライベートに日本リージョンを訪問された際にお会いした方も大勢あり、通訳付きということでもあり、参加者は70名近くになりました。参加している皆さまからエネルギーで、チャーミングなウィルナ会長がどのようなワークショップを展開されるのかと、期待に胸膨らませて参加されている様子が伝わって参りました。

まず、10の基本的なリーダーとしての能力が挙げられ説明が加えられました。

途中、テーブル毎に数枚の小さな紙が配られて、実戦的ゲームが少し取り入れられ、数名の発表者もありワークショップらしい雰囲気が作られました。日英で行われたワークショップのため、時間的制約が大きく、リーダー、参加者共に十分なキャッチボールができなかったのではないかと感じました。

リーダーはI T C国際会長として来日の2日前にテキサスで開催されたリージョン大会から英国に帰国されるという超多忙なスケジュールで動いている方で、今回のワークショップのテーマ、内容、形式など打ち合わせは困難を極めました。このワークショップはワークショップ内容の資料が届いたのは2週間前、配布資料は大会の4日前というウィルナ会長の言葉を借りると“at the last minute”の通訳を引き受けて下さった高橋会員に負うところが大きかったことをご報告いたします。

教育セッションD ワークショップ 評価

テーマ「評価に自信を持って」

ワークショップリーダー：泉 和子 (No.2 阪神クラブ)

I T C国際役員副会長ディビジョンIV

I T C日本リージョン議会法規役員

プログラムリーダー：川崎 邦子 (No.4 岡山クラブ)

日時：2005年6月14日 15:30~17:00 比良 (ホテル2階)



D ワークショップ 内容報告

リージョンプログラム委員 稲葉由利子 (No.1 名城クラブ)
児玉 明美 (No.4 福山クラブ)

93名という大勢の参加者のため、通常のワークショップ形式は難しく、ワークショップを取り入れた講演形式で行われる旨説明がありました。はじめに、会員から「評価者と被評価者の心得は？」「正しい評価とは何か」の質問があり、その答えを含めながら、講演がなされました。「評価」の

理念、目的、効用、また自己評価の重要性について、朗読やパフォーマンスを交えながら、パワーポイントを使って、楽しく、わかり易い説明がありました。

真屋順子さんの文章が一参加者によって朗読され、表題を皆で考えました。

また、「悪いビジネス評価」のパフォーマンスでは、どこが悪い評価なのか、どうすれば正しい評価になるかを、一文ごとに丁寧な解説がありました。

最後に、「評価」の全てが網羅されている20ページに及ぶ資料をいただきましたが、参加できなかった会員からは「クラブでも是非利用したい。」とコピーの要請が相次ぎました。

評価とは円熟した責任ある人に成長するための最良の手段である。「評価」の知識や方法を学ぶことも大切ですが、なぜ私たちは「評価」を学んでいるのか、原点に戻って考えることのできた貴重な時間でした。

教育セッションE ワークショップ 実践 テーマ「ITCの出前」～企画の立て方～

ワークショップリーダー：稲次 美子 (No.5 堺東クラブ)

プログラムリーダー：長縄智恵子 (No.3 関西クラブ)

日時：2005年6月14日 15:30～17:00 伊吹 (ホテル2階)



E ワークショップ 内容報告

リージョンプログラム委員 小河フク子 (No.3 舞子クラブ)

外部からの「ITCの出前」の依頼先(対象)を以下の8の部門に想定し、実行するための案をテーブルごとに話し合い、検討して企画書を作成しました。①中学生 ②高校生 ③大学生 ④医療に携わる学生 ⑤PTA ⑥ニュータウンの自治会発足 ⑦団体(環境問題を考える会) ⑧団体(商工会議所の女性会)

話し合いに入る前にワークショップリーダーが、企画する上での必要な事柄、注意点などを説明し、白鳳短大(奈良県)での報告並びにデモンストレーションを行いました。

その後テーブルリーダーのリードのもと、話し合いは白熱化していき、それぞれのテーブルで企画書が作成されました。その企画書はテーブルごとに発表され、それに対する質問も飛び交いました。この8枚の企画書は日本リージョンの「教育研究委員会」に委ねられ、資料として完成されることになっています。

参加者からは次のような声が寄せられました。「日本リージョンのテーマ“社会への発信”に合った適時のテーマであった。」「ITCが今後発展していくためには、社会との接点をもたなければいけないと痛感していた時だけに、とてもいい企画だと思った。」「テーブルリーダーに当たっていたので、前もって準備したがそれがとてもいい勉強になった。」「今後“出前”する機会があれば、作成された資料を大いに活用して活動していきたい。」



スピーチコンテスト英語の部

2005年6月14日 13:30~15:10

スピーチコンテスト委員長 近本節子

「ITCスピーチコンテスト規則と任務 2005-2007」に変更され、初めて「カテゴリー」を選択するリージョンスピーチコンテストです。これに先立ち、5カウンスルのスピーチコンテストに出席いたしました。リージョン大会での皆様のレベルの高いスピーチに感銘を受けました。15名のスピーカーの皆様、素晴らしいスピーチをありがとうございました。審査員の皆様、会員の皆様のご協力でスピーチコンテストが無事終了し、有難うございました。

プログラムリーダー：乙野 靖子（北摂クラブ）

Order	Council	Contestant (Club)	Category	Subject	Title	Time
6	No.1	Toshiko Maruo (Chikusa)	Speech to Inspire	Nature	Too much is as bad as too little	7'00"
7	No.2	Kayoko Fukazawa (Kobe)	Speech to Inspire	Life	What color is your life?	7'17"
3	No.3	Yumiko Nakajima (Crystal Kobe)	Speech to Persuade	Tradition	Japanese Spirit	6'21"
2	No.4	Setsuko Ihara (Okayama)	Speech to Inform	Trip	In the Sunshine through the Window	7'38"
5	No.5	Michiko Fudemoto (Umeda)	Speech to Inspire	Stimulation	Graceful Aging	8'09"
1	No.6	Yoshiko Takagi (Hokusetsu)	Speech to Entertain	Promise	Can I Keep My Promise?	7'22"
4	No.8	Miho Matsuoka (Tsukuba)	Speech to Inspire	Domestic Issue	Remodeling	5'59"

英語の部

優勝・入賞おめでとうございます

	スピーカー名	カウンスル名	クラブ名
優勝者	Yumiko Nakajima	No.3	Crystal Kobe
2位	Kayoko Fukazawa	No.2	Kobe
3位	Yoshiko Takagi	No.6	Hokusetsu



● 審査コメント ● 審査員長：田丸 博治 氏

演壇に立った瞬間から全ての動作は聴衆に注意深く見られますから、無意味な動きはすべきではありません。視線も漠然と聴衆の頭上の空間を見るのではなく、左の座席の人ひとりを見て、その人に個人的に話しかけるかのように話すべきです。次に中央部の人、次は右の人と、一人ひとりを見て話すべきです。

話しはじめの文は聴衆を引き付ける強さが必要です。また、最後の文は聴衆の心に長く残るほど印象的でなければなりません。最低この二文は完璧に記憶して繰り返し練習しておくべきです。

本日のスピーチの中で気づいた修正してほしい語は以下のとおりです。

1. アクセント : character, event, frequently, idea
2. 発音 : work, learn, Japan, imagine, married, finishing, amazing, tragedy, age, energy, orange, stress, drama,

スピーチコンテスト日本語の部

2005年6月15日 13:30~15:30

プログラムリーダー：久貝百合子（城北クラブ）

順番	カウンスル	氏名 (クラブ)	カテゴリー	論 題	題 目	時間
2	No.1	片 桐 寛 子 (錦)	楽しませる	温故知新	旅ゆけば・・・	7'30"
1	No.2	立 野 知津子 (阪神)	楽しませる	優 雅	柔軟剤を2・3滴	7'56"
6	No.3	小 河 フク子 (舞子)	気持ちを高める	視 野	私の勘違い人生	7'26"
4	No.4	重 中 祥 子 (ひろしま)	調査による	I T革命	魔法の扉	7'24"
5	No.5	松 本 敬 (豊中)	説得する	真 髓	音風景	7'40"
8	No.6	森 本 榮 子 (奈良若草)	説得する	エネルギー	青少年に期待	8'03"
3	No.7	竹之内 美紀子 (境)	気持ちを高める	五十歩百歩	ぼくは一元玉です	7'18"
7	No.8	池 田 美智恵 (彩玉)	気持ちを高める	くらし	おはなしのろうそく	7'26"

日本語の部 優勝・入賞おめでとうございます

	スピーカー名	カウンスル名	クラブ名
優勝者	松 本 敬	No.5	豊 中
2 位	重 中 祥 子	No.4	ひろしま
3 位	小 河 フク子	No.3	舞 子



● 審査コメント ● 審査員長：岩崎 裕美 氏

大変興味深く各スピーチを聴かせていただきました。審査をふまえて、今後に向けてのアドバイスを…

1. スピーチの目的をより明確に。
一人芝居では聴衆との間に溝が出来てしまいます。何の為に話すのか、目的意識を明確に。
2. 自分を客観的に見つめる。
人前で話すには、自己コントロール力が必要です。何度も練習を繰り返す事で、リズム、間、表情にまで意識できる余裕が出てきます。
3. 思っている事を的確な言葉で表す。
日常から言葉を大切にします。気持ちにピタッとする言葉を探す習慣を身につける事。
言葉を通して伝わってくるのはその人の生きる姿勢です。今後、大いに期待しています。

ITC日本リージョン声明文 2004-2005

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供して、リーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。

Mission Statement of Japan Region

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.

謝 辞

大会準備委員長 三村 敦子



第23回年次大会は近江の海に抱かれ、お迎えした750人を超える参加者の皆様に支えられ無事に終えることが出来ました。本当に有難う御座いました。この大会が喜びの中で出会い、楽しみの中で学び、明日のITCへの希望をいなく濃密なひとときであります様にと準備委員会一同、心を砕いて参りました。生演奏による会長行進は如何でしたでしょうか。

晩餐会に於ける大人のエンターテインメントはお楽しみ頂けましたでしょうか。又、名水で沸かされたコーヒーは堪能して頂けましたでしょうか。そしてホテルからのロケーションと共に会場の飾りつけに心癒されましたでしょうか。2日間に凝縮された中で真摯に学ぶ友に出会えた事、そしてそれをお手伝い出来た幸せを今、しみじみと感じております。

又、2日間の大会は準備委員会とホテルとの緊密な連動は必要・不可欠なものでした。それだけに準備委員会内でのチームワークは勿論の事、ホテルスタッフとの信頼関係を築き上げることも重要で私達はこの事からコミュニケーションの大切さを身を以って実感致しました。プリンスホテルスタッフの皆様も私達のあくなき要求に良く応えそして耐えてプロのすごさも教えて下さいました。この大会に力をお貸し下さいました全ての皆様の御友情に心からの感謝とお礼を申し上げます。

年に一度、集い・学び・楽しみを分かち合っ得た宝物を胸に又一年後お目にかかれますのを楽しみに致しております。有難う存じました。

ITC国際会長とご一緒に観光して



晴天に恵まれ、国際会長はじめ114名の参加者を乗せ、外輪船ミシガンショーボートナイトクルーズは出航しました。国際会長はメンバーの方々のテーブルに出向かれ、一人ひとりにお声を掛けられ親しくコミュニケーションを図られていました。全国から集ったメンバーは暮れゆく琵琶湖の風景を称賛し、おいしい食事に舌鼓をうち、陽気なライブショーでは、一緒に大いに盛り上がり、アッという間に過ぎた2

時間半のミシガンの旅でした。



観光委員長 宮川 容子

ホスピタリティーコーナー

会員の皆様が、美味しいコーヒーや冷たい紅茶片手に、疲れと緊張を取りホット一息、また再会や新しいお出合いの楽しい語らいを楽しまれる様にと、委員一同いろいろ知恵とアイデアを出し合っ心を含めて準備いたしました。お蔭様で限られたお時間なのに思いがけない位多くの会員の皆様にご利用頂き、委員は皆大忙しの2日間でした。



ホスピタリティー委員長 西阪 宣枝

インフォメーションデスク

インフォメーションデスクは会場案内、問い合わせ、落とし物の処理等大繁盛でした。未だ引取りの無い落とし物（茶色の筆入れ、老眼鏡、ピアス、ハンカチ2枚、シャープペン、ボタン等）は9月末日迄保管し以降は処分致します。【問合せ先】 委員長 小原三恵子（0742-43-7414）

I T C カウンシルNo.8 遠藤万寿美会長に 誌上インタビュー

会報第1号(P.25) カウンシルNo.8の会長方針の中で「改革を実行していく」とありましたが、今期、実行された「改革」について、お聞かせください。よろしくお願いたします。

Q. 今期、「組織が身軽になった」カOUNシル運営組織のスリム化について具体的にお話してください。

会合の回数を2回にし、役員の人数を4名にしました。委員会は会報委員会のみで、年2回の発行をウェブサイトで閲覧し、HPは随時更新としました。無くなった委員会の仕事(リージョンへの報告等)は必要時に役員及び役員会で対処しました。CMTはクラブ内での引継ぎをきちんとしてもらい、希望部門のみ対応する方針を取りましたが、今期はメールや電話での対処ですみました。

Q. カOUNシルではいつからスリム化の準備を始められたのですか。

長年簡素化を目指していましたが、13期(2002~2003)にI T C会則改正に伴い、カOUNシルが自由選択制になる時でした。No.8ではカOUNシルを無くすか、もしくは存続させるならどのようなカOUNシルにしたいか、というアンケートを各クラブに送付しました。その結果意見の多かった「スリム化して存続する」の方向に決定し、「会則改正案作成チーム」が結成され、改正案作成に力を注ぎました。

Q. カOUNシル No.8 や所属クラブで会員の話し合いはどのように行われましたか。

アンケートをクラブに送付した時点で会員から活発な意見が出たと思います。カOUNシルを無くして身軽になるかという瀬戸際まで考えたのですから、真剣な話し合いをしました。

Q. 会則改正はいつ、どのように、実現されたのですか。(カOUNシル No.8 会則改正方法)

14期(2003~2004)9月1日、各クラブに「会則改正案(主な変更箇所の説明付き)」を送付し、10月末の第1回会合で改正案が採択されました。15期(2004~2005)8月より新会則で出発致しました。

Q. 現在、役員会や委員会はどのように開催され、運営されていますか。

役員会、委員会ともパソコンにより通信役員会及び委員会を前もってしておき、当日は細かい意見交換、修正、および最終決定を行いました。

Q. 現在のニューズレターについて、ウェブサイトで閲覧できない会員の対処方法をお聞かせください。

13期、14期はカOUNシルで各クラブに1部ずつプリントして渡していましたが、15期はそれを止め、クラブに一任しています。(プリントして渡したり、回覧したりと色々です)

Q. 1年間を経て、スリム化の効果と会員の反応はいかがですか。

I T Cを負担に感じない1年でした。

「時間、労力、資源の無駄が無く良かった」、「ゆとりを持って準備が出来た」、「2回の会合なら役を受けてもいいかなと思う」となかなかの反応です。勿論「会員と会う回数が少なくなったのがつまらない」との声もありました。

Q. カOUNシル No.8 の今後の展望・期待をお話してください。

No.8は仕事を持つ会員が多い為、これからも必要があれば時代に合った運営組織に変えて行き、「学びやすいI T C」「続けていて良かったI T C」になることを期待しています。

◎組織運営に諸般の課題を抱えているカOUNシルやクラブに、参考になったことと思います。インタビューにご協力ありがとうございました。カOUNシルNo.8のご活躍を願っております。

インタビューア-：リージョン編集者 編集スタッフ

第23回 I T C日本リージョン年次大会に参加して

大会に参加して感じたことを全国89クラブを代表して日本列島の東西南北に位置する4クラブの会長にお聞きました。

東・西・南・北のクラブから

「空・水・土」の中で学んだこと

カウンスル No. 8 アクア千葉クラブ会長 寺西キヌ子

【会員数：13名 参加者数：4名】

大津琵琶湖でのリージョン年次大会に参加して、『学び』について前向きに考えるチャンスを得ることができました。

第7期を終えようとしている我がアクア千葉クラブですが、ビジネスは、活発に意見の交換をすることもなく、これで良いのかしらと思いつつも、時間内に終了することを優先してきました。

ところが、大会ではリージョン会則・常規に対する修正案の審議に入りますと、各派遣員よりいろいろな意見が出されました。その内容は、我がクラブがこの修正案を審議する時に、考えも及ばなかったほど奥深く論理性に富んだものでした。一つ一つの意見に、ただ感心するのみでした。会員が自分自身で考え討論していく姿勢が、残念ながらなかったというクラブの現実を再認識しました。

『学び』に対する姿勢を、ここで今一度見直して、少しでも進歩しなければと痛感しました。次は何を得ることができるのか、大会を楽しみにしています。

東・西・南・北のクラブから

大きな湖に抱かれて緊張の中にも心休まる2日間

カウンスルNo. 7 出雲クラブ会長 江田 咲子

【会員数：26名 参加者数：5名】

出雲クラブは、15年目を迎え会員数26名と減りつつある今期、テーマ『満足ー共に学び成長しー』として自己の満足度の設定を促しました。バザー収益金を元に委員会を設けPREMを目的とした15周年特別例会を通常例会延長の形をとって開きました。思いがけない伊庭文子様、藤村泰子様両名のベテラン会員の参加、ライオンズクラブのお客様、沢山の元会員を迎えてプログラムはITを使ったクラブ15年の歩みと元会員、お客様へのインタビュー形式で一般にアピール致しました。各委員会の活躍、連結力でぶっつけ本番の例会でしたが後は少しでも新入会員獲得につながればと思います。

第23回日本リージョン年次大会は経験豊かな前期クラブ会長の申し送りの言葉「ITCに入ったからにはリージョン大会に参加しないと意味がない」を受け5名出席いたしました。

ITC会長の言葉の壁を超えて伝わる熱意、早川会長の困難な中にも皆を平常心に戻すユーモア、泉国際副会長の努力、誠意は直接伝わるものがあり、大きな湖に抱かれての2日間は緊張の中にも心休まるものでした。又、年々聞き応えのあるスピーチコンテストの話題は帰りのJR山陰本線列車の中までも他クラブの会員を交えて続けました。

学びと感動をクラブ会員と一緒に味わいたかった

カウンスルNo.4 大分クラブ会長 江藤 玲子

【会員数：17名 参加者数：1名】

大会プログラム2日目、トップリーダー Wilna Wilkinson 国際会長の『TPP 2005』研修を受け大分に持ち帰ったのは「新しい『パワートーク I T C』から新しいスキルを身に付け、グッドスピーカー・グッドプレゼンター・グッドコミュニケーターになって欲しい」という言葉でした。

「発声方法の重要性」「聞き取りにくい声で話してしまうと、せっかくのプレゼンテーションも台無しになってしまう」等、今までの教育資料にもこのようなことは書かれているように思いますが、しかし『パワートーク I T C』は、実践を重視した内容で、より具体的でとてもパワフルでした。

大会直後のクラブ例会で「リージョン大会からのプレゼント」と題してスピーチをした際、早速国際会長の「TPP」の教えを、にわか仕込みではありましたが取り入れてみました。その結果でしょうか、私の学びと感動をクラブ会員と一緒に味わいたかったという熱い思いが強く伝わったと会員から言われました。

大会前日の観光や夕食はカウンスル No.4 のメンバーとご一緒させて頂き楽しい時を過ごす事が出来、I T C会員の優しさと思いやりを感じました。また、大会全般に行き届いた運営をされた、大会準備関係者の皆様に感謝、敬服。来年のミステリーツアーには一人でも多くのクラブ会員と一緒に参加したいと思っています。

I T Cリージョン大会に初めて参加して

カウンスルNo.8 盛岡クラブ会長 智田 恵子

【会員数：13名 参加者数：4名】

意思の適正な伝達に、トレーニングを楽しみながら力をつけられる良い機会と思い4年前に入会しました。よく理解できないままに、3年目には会計を、4年目には会長を引き受けていました。カウンスル No.8 のCMTに出席しても、秋春のカウンスルの会合に出席しても全体を把握するまでに至りませんでした。リージョン年次大会に参加してやっとわかりました。まさに“百聞は一見に如かず”。特別プログラムの龍村仁監督のお話には感動のあまり涙が出ました。長年にわたり思い悩んでいた‘生きる’ことの意義に宇宙規模の答えをいただいた気がいたしました。

教育セッションの安東信元先生の‘日本語の表現を心の芯において’演じていらっしゃるという狂言という古典文化の講演も共鳴して楽しく受けられました。他の部門も素晴らしい講師陣による教育セッションがあり、身体がひとつしかないことを残念に思いました。

各カウンスルを勝ち抜いてきた方たちのスピーチコンテストのレベルの高さ、いつか自分もあのように堂々と、自然に、聴衆に染み入るスピーチができるまでトレーニングを仲間と楽しみながらつんでいきたいとおもいます。

今回の出席は4名でしたが来年は、I T Cのすばらしさを実感してもらうためにも、多くの会員をお誘いしたいと思います。盛岡クラブは、残念ながら初年度の半分以下の会員数です。が、トレーニングのチャンスは充分にあり、和気藹々と楽しみながら、力を確実につけております。来年の年次大会を楽しみに、2回目の会長を務めてまいります。

第23回 ITC日本リージョン年次大会アンケートのまとめ

日本リージョン第一副会長 中野知子

第23回年次大会アンケートは94名の方から建設的で貴重なご意見を頂くことができました。このご意見、ご提案が今後のリージョン大会のあり方を考える力となることを願い、数の多いご意見を中心にまとめました。

1. ピンポイント

良かった点

- ・会長のリラックスした進行ぶりやユーモアのセンスが2日間を通して明るくエレガントな雰囲気を醸し出した。
- ・赤・青カードでの挙手はフロアーからも解りやすかった。
- ・活発で整理された意見が多く出て好感が持てた。

改善点

- ・時間切れで審議されなかった修正案については、打ち切りか、継続かをはっきりするべき。
- ・審議を大切に。クラブで長時間、討議した結果を持ち寄っているのだから。
- ・委員会報告は書面で。(ウェブサイト、リージョン誌を利用)

2. 教育セッション・プログラム

特別プログラム

- ・大会テーマ、時代のニーズにあった内容の講演であった。
- ・講師の熱意が伝わってきて感銘を受けた。
- ・生きていること、生かされていることの素晴らしさを知った。
- ・小学生、中学生に聞かせたかった。自分が受けた中で最も素晴らしい講演であった。

各セッション

A. 狂言

- ・日本人でありながら余り触れたことのない日本伝統文化の奥深さを知り、守ることより活かしていくことを考えようと思った。
- ・日本語の良さを強調する講師、そして共に発声出来たことがよかった。
- ・講師の熱意、風格、内容、リージョン大会にふさわしいセッションだった。

B. 講演

- ・コマーシャル映像と共に話が聞けたので良く解り印象に残った。
- ・暖か味のある京都弁での講演にコミュニケーションの奥深さを知った。
- ・普通ではなかなか聞けないタイプの講演で楽しく良い企画であった。

C. リーダーシップ

- ・ウィルキンソン会長のリードで楽しく進められた。 ・わかりやすい資料で役に立つ。
- ・通訳つきなので時間が足りなく残念であった。

D. 評価

- ・評価について重要性を再確認し楽しく学べた。 ・素晴らしい資料に感動した。
- ・クラブやカウンスルでこのワークショップを役立てる積り。

E. 実践

- ・周到な準備に基づいた意欲的なワークショップだった。
- ・活発な意見が次々出てよかったが、時間がもっと欲しかった。
- ・企画書作成の大切さがわかりやすく説明されていた。

TPP

- ・パワートーク ITC は具体的でとても解りやすかった。
- ・充実した内容で、クラブ、カウンスルで利用するヒントとなった。

全 体

- ・よく考えられていてバランス取れた内容は良かった。
- ・バラエティーに富んでいて内外講師の比率もよく満足度が高かった。
- ・社会につながる内容があり勉強になった。

☆今後どのような教育・プログラムを望みますか？

- ・より具体的に、より実践的なもの。 ・世界情勢などについて。
- ・表現の豊かな日本語の使い方について。 ・参加型のプログラム。
- ・地球環境、教育など I T C の枠を越えた社会問題。

☆どのような講師を希望しますか？

- ・時の人・開催地で有名な講師・経験豊富な会員・今回の国際会長のようなリーダー。

☆その他

- ・セッションを2つ以上受けられる工夫を望む。 ・時間厳守を望む。

③. 大会準備

良かった点

- ・会場選びが素晴らしく、雰囲気、ゆったりした広さ、レクビューが良かった。
- ・観光クルージングは楽しく行き届いていて感心した。タクシー観光は良いアイデア。
- ・食事が美味しく楽しめた。コーヒーサービスが美味しかった。
- ・インフォメーション、受付、登録全てのホスピタリティーは誠実にこやかだった。
- ・飾り付けが上品で印象深かった。 ・消防隊の生演奏が良かった。
- ・ウェブサイト以案内がでていたこと。

改善点

- ・会場案内表示がもっと欲しかった。 ・シャトルバスの案内が足りず知らない人が多かった。
- ・昼食時間とサービス速度に工夫が必要。
- ・横長の会場のためサイドに着席すると音も聞こえにくくステージも見難かった。
- ・準備のため或いは受付のためにプログラムに参加できない人がいるのは会員として不公平、合理的な工夫が必要である。

☆開催希望地

- ・東京（最も多かった）・新しい土地・便利な地方都市（今回のように）・九州・京阪神・その他各地（カウンスル持ち回りでは？という意見もあった）

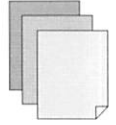
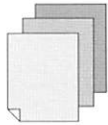
4. あなたにとって理想のリージョン大会とは

- ・楽しく、教育的、品格、プログラム、ビジネス進行が模範とされる大会。
- ・コンパクトで充足感の得られる大会。
- ・勉強、友との出会い、美味しい食事、華やかなバンケット、楽しいエンターテインメント。
- ・リージョン会費を払っている会員に対しその活動目的を報告する場（今回は達成されていた）。
- ・地方色も出ているとより楽しい。 ・充実したプログラムと審議。

⑤. そ の 他

- ・エンターテインメントが良かった、最高のヴォーカルを楽しめた。（多数）
- ・スピーチコンテストのジャッジがバランスの取れた組み合わせでよかった。
- ・参加して I T C メンバーであることを誇りに思えた。素晴らしい経験だった。
- ・英語が必要な参加者の数が少ないのに比して英語使用の場面が多く時間が無駄と感じた。工夫が必要。
- ・全体に時間管理をもっとして欲しい。メンバーは時間通りに着席する意識を忘れている。
- ・コンパクトな2日間開催で出席しやすかった。（CMT、TPPは別日の意見もあり）

アンケートにご協力、ご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。



リージョン会報に関するアンケート集計報告

第23回年次大会において、編集独自のアンケート用紙を配布いたしました。今期の会報発行は4回のうち1回をウェブサイト掲載することで予算編成され、第3号が4月5日にウェブサイト発行となりました。皆様から多くの貴重なご意見を戴きまして、ありがとうございました。未回答の会員もこのアンケート結果をぜひお読みください。

<2005年6月14日・15日実施> 配布数250枚 回収数55枚 ※%に無回答数含まず

1. 会報第1号、第2号をお読みにになりましたか？

- ・読んだ 44 (81%) ・部分的に読んだ 9 (17%)
 - ・読まなかった 1 (2%)
- (回答数54)

2. 会報第1号、第2号について全体的に見て満足されましたか？

- ・満足 26 (48%) ・やや満足 24 (44%) ・どちらでもない 3 (6%)
 - ・やや不満 1 (2%) ・不満 0 (0%)
- (回答数54)

3. 会報第1号、第2号について

☆良かった点

- ・字の大きさ、色、レイアウトが洗練されていて読みやすい。
- ・リージョン関連記事はコンパクトでわかりやすかった。
- ・カラフルな写真や他クラブ・他カウンスルの案内により、よく知ることが出来た。
- ・今期のテーマ「社会への発信」に基づいた記事は興味深く読んだ。テーマがよく反映されていた。
- ・日本リージョンの内容をよく知ることが出来た。
- ・いつも編集のご苦勞を察し、それなりのスタイルにまづまず。

☆悪かった点

- ・第2号にホームページアドレスを掲載してほしかった。
- ・編集がオーソドックス。工夫がほしかった。独自の色がでていない。もっと遊んでも良いと感じた。

☆改善点、その他ご意見

- ・今具体的に覚えていないということは強い印象がないのでしょうか。
- ・第1号について毎年同じようなご挨拶など簡素化されてはどうでしょうか。

4. 会報第3号（ウェブサイト発行）をお読みにになりましたか？

- ・ウェブサイトで閲覧 27 (50%) ・クラブから配布、回覧で読んだ 11 (20%)
 - ・読まなかった 16 (30%)
- (回答数54)

5. 会報第3号（ホームページの内容）について全体的に見て満足されましたか？

- ・満足 12 (31%) ・やや満足 14 (36%) ・どちらでもない 10 (25%)
 - ・やや不満 3 (8%) ・不満 0 (0%)
- (回答数39)

6. 会報第3号（ウェブサイト発行）について

☆良かった点

- ・ウェブサイトの紹介のところにはアドレスがあり、クリックするとアクセスできた。
- ・ウェブサイトにして大変良かった。新しい試みが良かった。ウェブサイト配信は歓迎。
- ・低予算、転送で簡単に会員に配布できて良かった。
- ・簡単に読み易くまとめられ、リージョン大会の必須事項が詳細に掲載されハンドブックのように頼りになった。
- ・情報のすばやいキャッチが可能である。

☆悪かった点

- ・ウェブサイトのアドレスをすぐクリックできるようになっていなかった。
- ・A4に収まりきらないところがあり、直そうとしたが上手くいかなかった。
- ・全部冊子でしてほしい。
- ・第3号を心待ちにしていた。通常通り冊子発行にしてほしい。
- ・ウェブサイトでの閲覧は時間もかかり大変面倒。なかなか読めないのではやはり印刷のほうがよい。
- ・冊子で発行されたものは保存しやすいがウェブだと後日に残りにくい。プリントアウトに手間が掛かり負担が大きい。
- ・クラブにはウェブサイトを直接見られる会員が少なくプリントアウトが必要でその分仕事が増え、何故この号だけという疑問が残った。
- ・ホームページを起こせない人もいることを忘れないでほしい。
- ・内容的に物足りなかった。
- ・情報を提供するという点のみで編集の楽しさが失われたように思う。

☆改善点、その他ご意見

- ・予算面でのご苦労はあると思うが、全員が確実に目を通すためにも冊子発行を期待する。
- ・ウェブサイトに頼らず会報を配布してほしい。切に望みます。
- ・FTBのようにしていただいたら便利。
- ・ウェブサイトをもっと増やせばよい。

7. あなたが「リージョン会報」に期待することは？

- ・親しみやすく、全国の会員相互の連帯感を育む会報。
- ・情報が一目でわかりやすく、正確で迅速な情報の提供。
- ・各クラブの情報、苦労話など具体的な話題を提供してほしい。
- ・リージョンレベルのこぼれ話など。リージョンを身近に感じられるのでは。
- ・ウェブサイトではなく冊子でのほうがよい。あまり急激なIT化は疎外感を生みITC離れにつながるのではないかと心配。
- ・ページ数が少なくてもよいから今までのように冊子にしてほしい。

誌面の都合上、全てのご意見を掲載できなかったことをご了解ください。
アンケートにご協力、ご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

ITC日本リージョン事務局 Eメール アドレス

itcjapan@cronos.ocn.ne.jp

ITC日本リージョンホームページアドレス

<http://www1.ocn.ne.jp/~itejp/>

リージョン増設委員会から

➡ ITC日本リージョンによるクラブ増設説明会を沖縄・那覇市で！

ITC日本リージョンによる「クラブ増設説明会」の開催が決まりました。沖縄県在住のご友人・知人をご紹介ください。連絡先：リージョン増設委員長 永井 眞澄 TEL 048-526-2973

ITC日本リージョン クラブ増設説明会

【日 時】2005年7月24日(日) 13:30~16:30

【場 所】てんぶす館 3F 那覇市NPO支援センター内

TEL 098-861-5024 (国際通りの真中辺り、三越デパートの前)

【ITC参加】リージョン第二副会長 葛谷美紀子

リージョン増設委員長 永井 眞澄

カウンスルNo.1 ニュースレター編集者から

➡ カウンスルNo.1 ITC会員、万博会場で活動中

日本国際博覧会が、愛知を会場に<愛・地球博>として開催中です。地元のカウンスルNo.1会員は、いろいろな分野で参画したり支えています。まさに社会に発信しています。

7月9日には「地球子ども会議2005」が市民プロジェクト参画で開催され、中学生によるスピーチコンテストやフォーラム、平和宣言

ターにITC会員が数多く参加しました。この他にも「会場案内」「迎賓館ド」「都市の紹介に参加」などなどウハウを活かして、万博に参加し、いま開催中！



が行われ、その実行委員やモデレーターの花を生ける」「身障者の為のガイ幅広い分野で、ITCで学んだノ楽しんでます。9月25日までただ (No.1 編集者 伊藤容子)

編集後記

※ “新しい試み” にいつも、視界180度の関心を寄せ、皆様から原稿を頂戴してまいりました。会員の皆様からいただく情報の数々は目と心を大きく開かせるものでした。リージョンと全国の会員を結ぶコミュニケーションの役割を果たしているのかを問い続けた一年でした。グローバルに変化していく社会の中で、日本人の“心がおいてきぼり” にならるようにITCの活動によって感性と知性を磨くことができることは、ありがたいことと思います。今日まで編集スタッフ一同、心を合せ4回の会報を発行できましたこと、皆様に感謝申し上げます。ご協力いただいた上野タイプ印刷様にお礼申し上げます。 編集者 中川 周子

※ 早川会長のテーマ「社会への発信」への記事がリージョン誌第2号に沢山掲載されました。多くの記事には活気あるITCが感じられ、編集作業のなかでわくわくしました。多くの会員に読んでいただき、いろいろな評価をして頂く事は編集にたずさわるものにとっては大きな喜びです。編集は裏方、筆者と読者の良いコミュニケーションにお役にたてたでしょうか！ 編集スタッフ 平岡 英子

※ 刻々と最新の情報がリージョンメールで届けられる今日、会報のあり方をウェブサイト発信も含め考えさせられました。会報は会員全員が保持する大切な記録、情報であることを念頭に、特にこの4号では大会の内容や楽しさ素晴らしさが参加できなかった会員にも正しく伝わるように編集にあたりました。優しい評価をお待ちしています。 編集スタッフ 堤 其美子

※ 編集作業では編集4名の侃侃諤諤の意見がパソコン画面上で展開され、対面によらないコミュニケーションが相互理解促進に威力を発揮しました。会報も同じく、書く側と読む側の対面によらないコミュニケーションです。書き手の訴求力を損なうことなく効果的に読み手に伝えることを意識して編集に努めました。得がたい経験をさせていただきましたことに感謝申し上げます。 編集スタッフ 片上 昭恵

会報第4号の訂正のお願い

第23期日本リージョン クラブ会長各位 会員各位

1年間、クラブ会長、会員の皆様には編集に対し、ご協力をいただきありがとうございました。この度、会報4号が7月28日に発行され、上野印刷(株)から各クラブ会長に届いていることと存じます。会報第4号の下記2件の訂正箇所を報告いたします。

クラブ会長は会員に「会報第4号」配布に併せ、「訂正書」も各々に配布いただきたく、ご協力をよろしく願いいたします。

1. P12 日本リージョン年次大会表彰 上から2枚目の写真を下記の写真に差し替えてください。



2. P19 スピーチコンテスト英語の部

前年度優勝者(日本語)佐藤抄会員のプレート返還の写真を下記の写真に差し替えてください。



今年度優勝者(英語)中島由美子会員(クリスタル神戸クラブ)

上記2件の個所について、差し替え・訂正をお願いいたします。

優勝者中島会員、各クラブの皆様及び関係各方面におかけいたしましたご迷惑をお詫び申し上げます。

2005年7月31日 第23期日本リージョン編集者 中川周子

会 員 変 更 届 (2004.11.28.～2005.6.30.)

☆カウンスルNo.順

2005年4月1日より施行の個人情報保護法により、住所、電話、e-mailは掲載いたしていません。

***新 入**

カウンスルNo.	クラブ名	氏 名
1	千 種	上 山 綾 子
1	浜 松	染 谷 順 子
1	東 山	福 田 祥 子
1	錦	村 井 さおり
2	神 戸	大 谷 差智子
2	宝 塚	土 肥 富 美
2	神 戸	馬 島 久実子
3	ポート神戸	赤 羽 規 子
3	ポート神戸	野々村 道 子
3	ポート神戸	黒 正 清 子
3	舞 子	星 野 須 美
3	芦 屋	北 村 紘 子
3	淡 路	平 山 けい子
3	淡 路	三 尾 守 栄
3	淡 路	丹 羽 三恵子
4	ひろしま	市 橋 和 子
4	ひろしま	辻 典 子
4	大 分	宇 藤 真由美
4	福 山	ト 部 日登美
5	阿 波	柏 原 他加子
5	阿 波	南 千 絵
5	帝 塚 山	京 谷 照 子
5	阿 波	大 澤 仁 美
5	北 大 阪	越 堂 静 子
5	南 大 阪	山 腰 はずみ
5	北 大 阪	西 山 隆
6	琵琶湖	陣 内 季 子
6	金 沢	辻 裕 美
6	平 安	松 田 悠 里
6	金 沢	堺 京 子
7	米子マナー	大 石 民 子
7	米子マナー	山 口 安 代
7	とっとり砂丘	谷 口 文
7	倉 吉	中 井 明 子
7	倉 吉	加 藤 美喜子
7	出 雲	佐 貫 増 美
7	米子マナー	大 原 奈津子
8	東京セントラル	斎 藤 未 米
8	盛 岡	田 口 恵 子
8	東京セントラル	中 田 幸 子
8	サンデー	吉 川 知央里
8	サンデー	吉 川 芙久美
無所属	松 山	石 村 忠 彦
無所属	松 山	小野山 隆 志
無所属	松 山	松 田 秩
無所属	松 山	白 形 邦 増

***重 複**

カウンスルNo.	あとのクラブ名	氏 名	最初のクラブ名
5	梅田	米 田 隼 子	北大阪

***移 籍**

カウンスルNo.	新クラブ名	氏 名	旧クラブ名
2	阪神	原 太千子	東山

***役員・係 変更**

役 割	新任氏名	前任氏名
芦屋クラブ書記	小 野 千賀子	川上 瑠美
琵琶湖クラブE-mail係	宮 川 容 子	河野 路子
奈良若草クラブ会計	黒 木 徂 子	大沼 瑞栄
奈良クラブE-mail係	坂 本 たか子	中野 知子
リージョン次期会長	空 席	西田 富美子

***退 会 (6月1日以降の退会者は省略)**

カウンスルNo.	クラブ名	氏 名
1	東 山	墨 憲 子
3	西 宮	田 中 美 江
3	西 宮	逢 菜 幸 子
4	徳 山	吉 鶴 幸 子
4	安 芸	栗 原 雅 子
5	北 大 阪	宮 北 涼 子
5	大 阪	城 本 都
6	金 沢	本 田 美津子
6	奈良若草	大 沼 瑞 栄
8	柏	赤 塚 富美枝

リージョン会計 井 上 保 子

ITC日本リージョン会報 Vol.23/No.4 編集・発行：ITC日本リージョン 印刷：上野タイプ印刷(株)

